

【返還先】〒604-8571 京都市中京区河原町御池 京都市役所内 日本共産党京都市会議員団

【差出人】〒572-0814 寝屋川市堀溝 1-21-1 CHUETSU TRANSPORT Co.,Ltd.

コロナ禍で大変な今だからこそ **力あわせて** **くらし、福祉応援の京都市に!**

▼11月30日 党議員団が京都市に緊急申し入れ



コロナ感染防止へ

検査体制の充実
医療機関への減収補てん
中小業者への直接支援を

「行財政審議会」先取り **市民税減免廃止** は許せません 所得の低い人に**14億8000万円**の負担増

昨年の11月市会で、所得の低い市民の市民税減免制度を廃止する条例が可決されました（日本共産党のみ反対）。約5万人に対し1億6000万円の増税。連動する福祉施策など、京都市の事業だけで57事業、13億2000万円。合計14億8000万円もの負担増になります。



70歳を超え、抗ガン治療を行っています。医療費の月の限度額は8,000円、入院は24,600円+食事代、年金生活者には非常に助かっています。制度がなくなったら、通院が18,000円、入院が57,600円に。助けてください。



こんなときなのに

市長が
リストラ発言!

さらに

市民税減免廃止に続き、市長が諮問した「行財政審議会」では、財政が厳しいからと、福祉・教育・子育て施策など「聖域なく」見直し、さらなる切り捨て、削減が検討されています。

“行財政審議会”で
検討・議論されている内容

- ▶ 敬老乗車証制度の改悪・負担増
- ▶ 小学生の虫歯治療施策の廃止
- ▶ 国民健康保険料への繰出金のカットと保険料の値上げ
- ▶ 保育所運営費補助のカット
- ▶ 下水道事業への繰出金カットと使用料値上げ
- ▶ 各種補助金のカット

不要不急の
大型事業は“聖域”に

北陸新幹線の大阪までの延伸

〓 財政も 自然環境も 住環境も 大変! 〓

総事業費 **2.1兆円以上**
京都市負担は不明

トンネル工事による**残土** **10トンダンブ**
160万台分
処分方針も無し（府環境影響評価専門委員の試算）

堀川地下バイパス
「早期の計画策定」を国に要望

自治体の役割、責任の放棄

「社会的な課題の解決、これを税金で、公務員が、行政がやらなければならぬ」という時代は終わっていると思う。」

財政健全化推進本部会議における市長訓示より 昨年9月28日



コロナ禍に大切なのは… 大型開発より市民によりそう政治

2.1兆円以上・残土・大深度地下…問題山積
北陸新幹線延伸など

生活苦・生業・雇用… —コロナ相談—

ご相談引き続きお受けしています

TEL 781-6622 (左京生活相談所)

- ▶ 持続化給付金 ▶ 家賃支援給付金
- ▶ 緊急小口資金 ▶ 雇用調整助成金
- ▶ 発熱等のある方の相談は
かかりつけ医等に

※ 休日夜間など受診できる
医療機関がない場合 ↓

きょうと新型コロナ医療相談センター

TEL:075-414-5487

▶ 受付時間 土・日・祝日を含む24時間

30人学級の推進を 求める意見書採択!

昨年9月市会で、30人学級の推進を求める意見書が、全会一致で採択されました。

意見書は、全ての子どもたちに最適な学びを保障するために、30人学級の実現は教育政策の根幹として標準法を改正し、適切な定数措置と財政措置が行われることを要望しています。市民の運動が議会を動かしました。

医療機関への財政支援等を求める意見書

深刻な実態と関係者の切実な願いを反映し、5月市会、9月市会に全会一致で採択されました。



▲ 先生増やして!! 少人数学級@左京のみなさんが「『少人数学級実現を求める意見書採択』を要請する」陳情を市会議長に提出(9月28日)「小学校における7時間授業による生徒への詰め込み教育の改善を求める要望書」を教育長に提出(10月14日)



増税・福祉サービス削減ゆるせない

9月市会で提案され一旦継続審査となった市独自の市民税の減免が、わが党以外の全ての会派の賛成で11月市会において可決しました。私は、討論にたち、低所得者に増税と福祉サービス削減を押し付けるものであり、格差と貧困をなくすという地方自治体の役割に全く逆行するとして撤回を求めました。

施行までの3年間で更なる運動を広げ、減免制度廃止を撤回させるために全力を尽くします。また、今回の事態は、市長がすすめる「行財政改革」の本質を浮き彫りにしました。自助をおしつけ、福祉を切り捨てる「行財政改革」を中止させるべくがんばります。

「らしの願いで市政を変える

日本共産党
京都市会議員

加藤あい



核兵器禁止条約の発効、市民税の減免制度廃止をめぐる動き、市長選挙での市民の共同の発展など、世論と運動の力が政治を動かすことを実感した1年でした。「自助」という自己責任を押し付ける政治を転換できる時が近づいています。

コロナ禍で負担を押し付ける改悪は許さない



市民から負担増中止を求める要望書が市長や各議員に提出され宣伝も次々で行われた

世論と運動で改悪案を議決させず

市長が昨年の9月議会に、市民税の減免制度を廃止する提案(裏面参照)を行いました。しかし、市民からたくさん批判の声が議会に寄せられたことにより、議会が議決を見送り「継続審議」にしました。

市長が提案した条例が継続審議になったのは、33年ぶりのことであり、世論と運動の画期的な成果です。



次は自己責任押し付け政治の撤回を

ところが、市長はその提案を撤回せず、11月議会では共産党以外のすべての議員が賛成。市民の声を聴こうとしないものであり、許せません。

条例の施行は3年後。次は、実施させないための運動を大きく広げましょう。

また、今回のことは、「行財政改革」という社会保障の改悪を進める市長の方針の一環として行われたものです。国の「自助」=「自己責任の押し付け」路線と軌を一にするものであり、これらの方針そのものを撤回させるために力を合わせましょう。

核廃絶の世論が世界を動かす

核兵器禁止条約が 1月22日に発効

核兵器廃絶の声の高まりの中で、京都市が「平和首長会議」に加盟したのが10年前。核廃絶の世論は世界規模で大きくなり、今年の1月22日、核兵器禁止条約が発効することになりました。核兵器を使うことはもちろんのこと、持っていることも国際法違反となります。

被爆者を中心に始まった核廃絶の運動が、世界の国々を動かしました。



核兵器廃絶を求める左京区リレー宣伝

みなさんの声が
政治を動かした!

今こそ、いのちと暮らしを守る政治を

国民一人10万円の給付、事業者を支援する持続化給付金…あきらめずに国民の皆さんと野党が一緒になって声をあげることで、当初抵抗していた政府さえも動かす。市政でも実感してきました。野党がまとまって政権をとればもっと明るい未来が開けると確信します。希望ある社会めざし、皆さんとともに得た議席を足場に一層力を尽くします。

日本共産党 市会議員

とがし 豊 富樫ゆたか



生活相談でつかんだ声を届け、PCR検査対象拡大、文化芸術活動緊急奨励金など実現 市民税独自減免残せと論戦

党員・後援会の皆さんと一緒に、電話・訪問相談に取り組み、コロナ禍で困難にある皆さんを支援制度につなぐ活動をしています。文化芸術活動緊急奨励金制度、相談窓口の回線増設、PCR検査対象の拡大・保健所体制の拡充なども進めてきました。感染拡大が進む中、感染防止・暮らし応援のため全力を尽くします。(市民税に関しては、裏面に詳報)



地域の商店から聞き取り調査



学校のコロナ対策を視察。校長先生や現場の先生からヒアリング

一人ひとりの子どもたちを大切に育む学校を 少人数学級、中学校給食の実現を

少人数学級や中学校給食の実現をもとめて多くの市民の皆さんと一緒に奮闘中。コロナ禍だからこそ、一人ひとりに行き届いたケアと学び、感染防止のため少人数学級の実現が急がれます。今回、京都市会で30人学級の実施を国に求める意見書が全会一致となったのは大変大きな一歩です。



請願署名を提出に来た保護者の皆さんと一緒に

ムダと環境破壊の大型事業はやめ、再生可能エネルギー普及を

大規模災害が多発し気候危機とも呼ばれる中、地球温暖化対策の強化を求めています。堀川地下バイパス計画など環境対策にも逆行する不要不急な大型事業は中止して、自然エネルギーの普及にこそ力を入れよと迫っています。

重要な議案や
請願への態度
(9月市会、11月市会)
◎賛成 ×反対

左京区選出議員の態度	とがし共産	ひぐち共産	加藤共産	桜井自民	豊田自民	国本公明	宇佐美維新	(欠員)
消費税減税の国への意見書を求める請願	◎	◎	◎	×	×	×	×	※
医療機関への緊急財政支援を求める請願	◎	◎	◎	×	×	×	×	
市民税の独自減免を廃止する条例改定	×	×	×	◎	◎	◎	◎	

※左京区は定数が議員8ですが、村山氏が補欠選挙を行わない方法で市長選に出馬したため、欠員のままとされており、左京区民の声を届けるのはこの7人の議員の肩にかかっています。

困ったときは 共産党市会議員団に ご相談を

昨年は、この言葉を宣伝のたびに街頭で訴えてきました。
新型コロナウイルス感染症対策の支援制度はあっても「どれが使えるのか」「パソコンで申請できない」…など、困りごとに寄り添って支援してきました。身近な方の「困った」に寄り添うのは日本共産党だからこそ。
そして、対策が行き届かない行政や国の政治を大本から正していきます。「自助」を強調するのではなく、暮らしに寄り添う政治を実現するため、今年も頑張ります!!

山本 **陽子** **日本共産党**
京都市会議員

“自粛と補償は一体”と訴えた宣伝



今年度、コロナ対策について12回に渡る市への申し入れや懇談を実施

大学生・青年の困窮を支援する食材提供プロジェクトへの応援で生活相談に対応



新型コロナウイルス感染症対策の強化を!

まちのお商売の方への情報提供や相談



山科駅北側スロープのバリアフリー化を求める住民運動を応援しています!



小金塚循環バスの本格運行、鏡山循環バスの増便、新たに小山・大塚の京阪バスの増便など市民の足を守る公共交通の充実へ、頑張ります!

弱いものいじめは許さない!

京都の福祉を守る。

門川市長は、行財政審議会に諮問し、福祉施策のすべてを見直すと言う。すなわち、削ろうとしています。500億円財源不足だと市民には我慢を言いながら、不要不急の大型事業の見直しはしない。市長の態度は許せません。市民の税金は、市民のために使う市政を実現しましょう。

日本共産党
市会議員

鈴木とよこ

すずき豊子

コロナ禍の

困りごと、要望をききとり
市政に声を届ける。



“少人数学級”は
待ったなし!



山科医師会、社会福祉協議会、介護サービス事業所、地域包括支援センター、障害者施設、タクシードライバーの方、お店の方、地域住民の方を訪問し、現状と要望をお聞きし、議会での質疑・論戦へ。共産党国会議員と連携し、国の施策の改善や充実につなげています。

緊急事態宣言が解除された後、6月1日からの分散登校で子どもたちも教師も「少人数学級」の大切さを実感。京都市会では、「義務教育における30人学級の推進を求める」意見書を全会派一致で国へ提出。荻生田文部科学大臣を動かしています。市民の粘り強い運動の成果です。今後も議会で実現に力尽くします。



事業所訪問



タクシードライバーの方と対話



京都市への申し入れ

危険な山科の道、改善させる活動を



▲この白線で歩行者の安全を確保



きつい傾斜を少し改善▶

山科区は道路環境が悪い。歩道も狭く、根上がりのため凹凸がひどいところも多い。歩道の斜面がきつくて歩行器や車いすの方は利用が難しい。住民の方から寄せられた多くの要望を土木事務所や警察につなぎ、補修等の改善をしてきました。今後も「どうせ山科はこんなもの」とあきらめるのではなく、「危険。困る。」のお声をお寄せください。

さらに

山科区での30人学級を実現するのに必要な教師数

中学校			
山科	6	安祥寺	3
勸修	6	音羽	9
大宅	5	花山	5
			合計 34人

小学校			
山階	1	音羽川	6
西野	1	大塚	2
山階南	6	勸修	5
安朱	3	小野	5
鏡山	5	百々	5
陵ヶ岡	2	大宅	5
音羽	0		
			合計 46人

今、変えよう!

あなたの声が市政を動かす

「自助努力」「自分のことは自分で」…なんと冷たい言葉でしょうか。「言われなくても精一杯生きている」という声が聞こえてきます。国でも京都でも公的な責任を放棄する発言と政治運営が横行しています。今こそ「公助」の役割発揮の時です。ご一緒に声をあげましょう。政治の主役はあなたです。

こんにちは

日本共産党
市会議員

井坂博文

です

団長として

「提案し共同する議員団」

の先頭に

日本共産党は、市政の問題点を厳しく批判しつつ、市民要求を取り上げ政策提案し、市民運動と共同して市政を動かしています。

コロナ禍の中で、市民相談2,300件を受けて、市長に12回の申し入れと懇談を行い、制度改正と運用の改善が実現しました。「困ったときには共産党」と信頼を広げています。

さらに、市民や団体のみなさんと意見交換を行い、それをもとにした予算要望書を市長に提出しました。引き続き、市民に寄り添い、苦難軽減と要求実現、市政の転換をめざしてがんばります。



コロナ対策の要望書
申し入れ(8月)



予算要求懇談会(10月)

こんな時に増税と負担増か!?

11月市会の冒頭(25日)に、コロナ禍で大変な時に市民に増税と負担増を押し付ける市民税減免制度廃止条例が、日本共産党の反対を押し切って可決されました(詳細は裏面を参照ください)。提案した市長と賛成した議員に心の底から抗議します。

しかし、実施は3年後です。市民の世論と運動で撤回させるよう全力をあげます。



府市民総行動で訴え(11月)

ついに核兵器禁止条約が発効へ!

批准が50カ国を突破し、今年1月22日に発効します。

被爆者をはじめとした国際世論の大きな勝利であり、核兵器を違法と断じる初の国際法ができます。被爆二世として、議会のたびに声をあげてきた議員として、大歓迎です。

日本政府に核兵器禁止条約に参加して、核兵器廃絶の先頭に立つよう強く求めます。



核兵器禁止条約発効へ ホンジュラス批准し50カ国・地域に「核なき世界」へ一歩



平和行進(6月)

玉本なるみです



新型コロナウイルスによる感染拡大の中、新しい年を迎えることになり、何かと不安が多いと思います。こんな非常事態の時こそ、自治体の公衆衛生の体制や市民の暮らしを応援しようとする政府や市長、市会議員の姿勢が問われます。地方議員としての誇りにかけて市民の命と暮らしを守るために頑張ります。

学生さんの声に 耳を傾けて!

食材提供プログラムに
参加して



食材提供テント

学生さんが多い北区において、地域の方から、食材提供をしようという声があがり、数か所で実施してこられました。激励に伺い、アンケートや生活相談コーナーに参加し、学生さんの声に耳を傾けました。「友達ができない!」「リモート授業でわかりにくい」「バイトが見つからない。シフトが少なくて困っている」「そもそもの学費が高すぎる」などなど。食材提供を受けた学生さんが、今度はボランティアで参加する等の繋がりも広がっています。



学生さんからお話を聴く

災害地にかけつけ対策に尽力!

昨年7月の大雨は山間地域に大きな被害をもたらしました。現地にかけつけ、調査し住民の皆さんの要望に耳を傾け、行政に対応を求めました。



雲ヶ畑の土砂崩れ

ジェンダー平等の取組の前進へ 同性婚の法制化を!



京都市が「パートナーシップ宣誓制度」を創設し、一步前進しました。しかし、財産相続などの課題は同性婚の法制度が必要です。担当の委員会でも、まずは京都市職員の同性パートナーの休暇制度や手当などの適応を求めましたが、市は積極的な立場を示しませんでした。引き続き取り組みます。



「性暴力を許さない!」
フラワーデモに参加(左から3番目)

多様性を認め合う
社会って...?

ジェンダー平等について学び、私自身とても刺激になっています。「男のくせに泣くな!」「女の子らしいね」結婚しないの?」なんて言葉は多くの方が言われたり、言ったりしたのではないのでしょうか。「それが問題?」と思う人もおられると思いますが、実はとても傷ついている人がいるのです。男だって泣きたい。性自認で悩んでいる人。死にたいと思うほど、自分を追い詰めてしまう人もいます。子育ては母親の仕事という時代は終わっています。家事も分担し、男性も育児休暇を取る時代です。肉体的に力がある男性から性的被害を受け苦しむ女性が多くなる社会をめざしたいと思っています。一緒にすべての人の人権を認め合う社会の実現に向け、考え行動していきましょう!

アンケート



▼存続を求める要望書を市長に提出。
子ども若者はぐくみ局長が応対。



からくり時計を
再び、動かそう!!

京都こども文化会館の 再開を求めて



コロナ禍の子どもたちの願いに背を向け、
年度途中でエンゼルハウスが閉館されまし
た。公的な文化会館は、今こそ求められています。

子どもを豊かに育む地域づくりのために再開を求め
てがんばります。

こんにちは

くらた共子 です

日本共産党
市会議員

上京区に誰もが気軽に使える文化施設を

京都社会福祉会館、京都こども文化会館の閉館
につづき、京都府立文化芸術会館まで…!?
これでは、活動の場がなくなってしまう～!
区民のみなさんと力を合わせて、誰もが気軽に
使える文化施設の実現にがんばりたいと思います。



区役所に要望署名を提出する
新日本婦人の会、上京母親連絡会のみなさん

区役所の多目的スペース
だけでは足りない

新しい年を、みなさんと一緒に
希望の持てる年にしたい。これが、
私の願いです。
新型コロナウイルス対策の迷走が医療崩
壊を招いています。
感染症対策をしっかり行うこと
が、いま一番重要な経済対策です。
公衆衛生と社会保障を充実させ
る政治の転換にがんばります。
みなさんのご支援をよろしくお
願いいたします。

「住み込みの職場を解雇された。
いま京都駅、所持金は数百円。」
「85歳の母と二人暮らし。働きた
いが持病の再発で働けない。」
「二人の子どもと三人暮らし。
二つの職場に通いやすい市営住宅
に転居したい。」
「障害者と高齢者の世帯。公団
の閉鎖で転居が不安。」
「高齢者のひとり暮らし。家賃
の安いアパートに転居したい。」
痛切な声が寄せられます。ここ
に政治の縮図があります。
この声を市政、国政に届け、困
りごとの解決にあたる。これが、
私の日常です。

2021 希望

くらた共子の
みみまを
すませば



コロナから市民と事業者の 生活と生業を守る 京都市へ転換を

コロナ禍のもと、多くの企業が売上の減少を余儀なくされています。国が行っている給付などの措置も不十分な中で生活不安が増大しています。京都市に一貫して求めてきた生活への支援施策拡大へ引き続き全力を挙げます。

市会議員

日本共産党

ひらいよしひと

平井良人



議会報告

市民の足・交通局、 命の水・上下水道局の経営を守れ

決算委員会では、交通局や上下水道局のコロナの影響による財政悪化が明らかになりました。京都市はしきりに営業努力を視野に答弁されていましたが、自粛による影響も踏まえて国が減収に対する補填をすべきです。9月市会では、全会派一致で、公営企業の減収補填を求める意見書が採択されました。

市民のいのちと暮らしを 守る市政に —— 代表質問を行いました

12月1日に党を代表して、市長・副市長に対して質問を行いました。年末・年始を迎えるにあたり、コロナの影響で市民や事業者、医療従事者等は厳しい経営と生活におかれています。市長はこれまでの実績を述べるのみでした。こんな時にすすめる福祉の切り捨てと市民負担増をやめさせるために、引き続き力をつくしてがんばります。



長年求めてきた後院通り・歩道の 拡幅と傾斜の改善工事が始まります

長年の懸案であった後院通りの歩道拡幅と傾斜の改善工事がいよいよ始まります。現在、道路中央には、市電のレールが埋まっているため、中央から傾斜がついており、車椅子の方やベビーカーなどが通行しにくい生活道路であります。歩道幅も狭く改善が求められていました。ようやく改善されます。

京都市は 壬生新選組屯所周辺の景観を守れ

朱三学区には、壬生寺や前川邸、八木邸など新選組の歴史的史跡が昔の姿のまま残されています。しかし、高層のマンション建設が持ち上がり、反対の住民運動となっています。京都市は事業者への指導をすべきです。代表質問でも取り上げ、共に周辺景観を守ります。



左奥 新選組屯所前川邸

日本共産党 **かまの敏徳** としのり 市会議員

コロナ禍のもと地域を回ってみなさんの声をお聞きする中で、くらしや営業が今後も成り立つのか—そんな切迫感を強く感じています。「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ること」—京都市の役割発揮がどの時期よりも強く求められているのではないのでしょうか。市民の命とくらしを守る市政実現に向けて全力をあげます。



「消費税5%にもどして景気回復を！」と宣伝

コロナ禍のもと、今こそくらしと営業の応援を 消費税減税で地域経済活性化を

下京は中小事業者のみなさんが地域経済を長年支えてこられました。コロナ禍のもと、そうした事業主、働くみなさんを応援することこそが行政に求められています。雇用調整助成金、休業支援金、持続化給付金などをすみやかに支給する必要があります。京都市独自の直接支援策を求めます。

また、「消費税を何とかしてほしい」——地域を回ってこうした声をどれほど聞いてきたことでしょうか。経済回復のためにも、世界19カ国で試されずみの消費税減税実現を求めています。

まちこわしストップ 安心して住み続けられるまちに

呼び込み型観光政策の下、京都市が掲げた宿泊施設4万室の目標をはるかに超え、明らかに過剰です。にもかかわらず、元植柳小学校跡地のホテル建設をはじめ、簡易宿所・民泊建設がなおも進められ、まちなみは様変わりし、コミュニティの維持も困難になっています。

この間まちづくり委員会質疑で、宿泊施設の立地規制や相談窓口の拡充を求めてきました。だれもが安心して住み続けられるよう、問題の根源にある宿泊施設拡充誘致方針の撤回を求め、引き続きたたかいます。



元植柳小学校跡地。ホテル建設に向けて進む解体工事



「最低賃金引き上げを！」と訴え



市民税減免廃止は許せない!

なくせ格差と貧困 生活困窮者・低所得者への 支援充実を

生活保護申請手続きの簡素化、生活保護者へのエアコン設置助成、生活困窮世帯の子どもに対する学習支援充実、子ども食堂への支援強化、夏季歳末特別生活資金貸付の復活、国保料引き下げ、「市税減免制度廃止撤回」要請など、市民団体と生活困窮者・低所得者への支援を求めてきました。

非正規雇用者へ市独自の支援実施、京都市公契約基本条例に賃金条項を盛り込み「時給1500円以上」を保障すること、市営住宅の増設、学生への給付制奨学金と返済支援制度の創設など、くらしを底支える施策の充実を求めてきました。

引き続き全力をあげます。



全京都生活と健康を守る会のみなさんと「申し入れ」

くらし第一の思いを市政に

議会でも 議会の外でも **市民とともに**
市民と議会のパイプ役



井上 けんじ

日本共産党
京都市会議員



いつでもどこでもどこへでも
区内一円 所狭しと 自転車で
皆さんの声あるところ 声なきところ

市政の争点	市の姿勢、市長の主張	井上けんじの主張と感想
財政	口を開けば「財政危機」。市民税減免制度廃止を強行。敬老乗車証や学童う歯制度、水道の運営権民間化や市バス運賃値上げ、国保料値上げ等々、「聖域なく見直す」	国の大企業減税をやめれば法人市民税増収に繋がる。高額所得者の個人市民税率を以前の水準に戻せば増収に。軍事費を削るなど国の税財政制度政策への根本的批判が必要なのに、 国言いなりで展望は開けない 。
新型コロナウイルス対策 (1)	各区にあった保健所を市内一カ所に統廃合。地域から公衆衛生、保健予防機能を後退させる。	各区での保健所復活、公衆衛生の再生を。職員増員など 体制充実でPCR検査を抜本的に増やすべき 。
新型コロナウイルス対策 (2)	市「経営相談は商工会議所や金融機関へ行って下さい。固定費補助などは国の責任。」等。市の責任と役割は？	国にもっと強く財源を求めるべき 。持続化給付金対象外の中小零細事業者を市において応援すべき。家賃など固定費補助を。 市が直接、相談に乗るべき 。事業所悉皆調査を。
環境 地球温暖化対策 原発	2050年に二酸化炭素排出量ゼロをめざす。脱原発をめざす。	ゼロ目標は賛成だが中間目標の設定が甘い。達成への手立てについて「市民任せ」でなく 行政としてもっと指導・助言を 。 脱原発は期限を明確にすべき 。
福祉・医療・ 教育	国保料なども「聖域なく」見直す。介護保険は全国一律の制度(値上げやむなし)だ。少人数学級は創意工夫の教育を妨げる。中学校給食はお金がかかる。	市民への負担増・サービス切り捨てはやめよ 。「財政危機」と言うなら大型事業のムダ遣いはやめること。介護保険は自治事務だ。少人数学級も中学校給食も全国的に前向きの流れなのに。
市政運営	「民間にできることは民間に」	際限がない。公務員こそ市民への奉仕者。 住民の福祉増進が自治体の役割 。

活動と議会追及のひとコマ



▲ 農地を残せ

▼ 後期高齢者医療広域連合議会



▼ 今年度は委員会委員長でほとんど質問できず



井上 けんじ 委員長 (共産党 両区)

市議会委員会代表で政府へ財政要望▶



ハローワーク前で街頭アンケート活動▶



▲ 市民の対市要請に同席

▼ 市慰霊祭にて



▲ 住宅デーの取り組みを激励


※毎週発行の「議会報告ニュース」をご覧ください。HPにて。「赤旗」新聞「京都民報」にも毎週折り込んでいます。

ねがいとどく 南区

11月市会本会議 代表質問

皆さんの声をしっかり受け止め、
11月議会では3回目の代表質問に立ちました。

気候危機について

 気候危機に対して、世界中が目標を掲げています。京都市でも2050年までにCO2排出実質ゼロの宣言をしましたが具体的な施策は示されません。「再生可能エネルギーへの転換」「CO2吸収対策として森林整備とエネルギーの地産地消の取り組み」「輸送に伴うCO2削減へ、食の地産地消」について具体的な提案をしました。



公共交通について

市内周辺部は交通不便地域が多くあります。周辺部に買い物・病院・学校・駅などをぐるぐる回る循環バスを走らせ、乗り継ぎ無料にして、230円で目的地まで短時間で到着できるようにするべきと質問しました。「地域住民や交通事業者と連携し、公共交通網の維持確保に取り組む」「循環バスは財政の目途を立てつつ検討する」との答弁でした。



少人数学級について

コロナで全国の学校が長期休校し、再開にあたり分散登校で、一時的に少人数学級が全国的に実現しました。子どもたちから「いつもより勉強が分かった」、教師側は「生徒の個性がよく見え、個人の課題に対して対応できた」などの声がありました。9月市会でも「30人学級の推進を求める国に対しての意見書」が全会一致で可決されました。京都市は「独自予算での実施は困難。文部科学大臣に直接要望書を提出した」との答弁でした。一刻も早く京都市独自で取り組むべきです。



京都の文化について

文化都市京都と言いながら、この間多くの文化がないがしろにされてきました。金閣寺でもトイレ建設のために世界遺産の遺構を削ることがありました。こども文化会館も一方的に閉鎖しています。コロナ禍で疲弊している文化に携わる多くの方々が希望の持てる展望を示す施策が必要です。



地域の要望に寄り添って

西大路駅のバリアフリー化は、北東側の改札完了後、引き続き南西側にある現駅舎のバリアフリー化の実現についての質問。「物理的に解決困難な課題もあるが乗降客の流動状況を踏まえて検討を続ける」と答弁。合流式下水道の対策について「住民が安心して快適に過ごせるように」との質問には「国の法改正に併せ国庫補助金を最大限利用して水環境の改善を図る」との答弁でした。

京都市会議員
日本共産党

森田
ゆみ子

森田ゆみ子

皆さんと一緒に
要求実現できました!



吉祥院病院友の会事務所前の大きな溝に病院関係者と地域の方の立ち合いで南部土木に直接要望しました結果、落下防止柵が設置されました。



久世の横断歩道19か所を調査して南警察に要望し、横断歩道がくっきり分かりやすくなりました。

日本共産党市会議員団

TEL.222-3728

京都市中京区
河原町御池
京都市役所内

市会報告

2021年1月

子どもに笑顔 若者に仕事 老後に安心を

日本共産党 市会議員



ほり信子

市民の暮らし丸ごと応援で 希望のもてる政治へ

コロナ禍のもと、この一年の活動を振り返り、今年も「住民の福祉の増進を図る」自治体本来の役割を担い、また地域の仕事人としてみなさんの要望をしっかり受け止めがんばります。

写真で綴る活動報告

議員団での申し入れ



1月31日、京都市で新型コロナウイルス感染症の陽性者が判明した後、議員団として、12回にわたって申し入れを行ってきました。PCR検査の拡充、保健所体制の強化、医療機関、教育や福祉分野、文化芸術分野への支援等を求めてきました。

議会論戦

2月市会で、予算案の反対討論を初めて行い、国の悪政から市民のいのちと暮らしを守ることを求めました。また9月市会で、3度目の市長総括質疑を行い、少人数学級の実現や現行の



敬老乗車証制度の堅持等求めました。今年度の所属委員会は、「まちづくり委員会」。都市計画局、建設局からの理事者報告や請願・陳情について住民の声を生かして質疑しました。

府市政報告会

9月決算市会を終えて、右京区で府市政報告会を開きました。30人学級の推進を求める国への意見書が全会一致で採択されたことは画期的なことです。教職員の働き方を変え、最適な子どもたちの学



力保障をする少人数学級の実現に向けて、さらに取り組みを進めます。

地域の仕事人

みなさんの声を受け止め
要望を実現しました。



▲三条通りの舗装(嵐山区)



▲視界誘導ポストの設置(常磐野学区)



まちかどの
元気印!

中小零細業者に損失補填を！

新型コロナウイルスの収束が見通せないなか、右京民主商工会が行ったアンケートでは「持続化給付金の一回きりで、すでに底をついた。2度目を」との切実な声が寄せられています。

10月時点のアンケートで、コロナ禍が長引けば「廃業を考えざるを得ない」と答えた割合は35%。零細事業者は、京都経済と市民の暮らしを支える宝。「GOTOキャンペーンより損失補填を！」の声を挙げ続けよう！



今こそ消費税の減税を！

2019年10月に、8%増税による景気後退が続くなか、安倍前政権による2度目の10%への増税が強行され国内総生産が大きく落ち込みました。その後、コロナ感染症が加わり、2020年4～6月期のGDPは年率換算で、リーマンショックを大きく上回る28.1%でした。

コロナ禍のもと、経済対策として世界の多くの

国々で、日本の消費税にあたる付加価値税の引き下げが実施されています。

日本の国会議員の中でも自民党議員をはじめ与野党問わず多くの議員が消費税減税を求めています。

代表質問や常任委員会、予算・決算特別委員会でも繰り返し減税を求めました。

平和でこそ商売繁盛！ 核兵器禁止条約を 批准せよ！

2017年7月7日、122カ国が賛成し承認され、2020年10月24日、発効に必要な50カ国が批准し、今年1月22日発効となります。

被爆75年、粘り強く取り組んだ被爆者をはじめ市民社会の運動が大きく世界を動かした貴重な成果です。

残念ながら、唯一の戦争被爆国日本政府は参加していません。禁止条約に参加する政府を1日も早く実現しましょう。



補助金活用で商売繁盛 京商連青年部学習会に参加

これまで国は、成長産業を指定して支援する方式でしたが、「小規模事業者持続化補助金」は全ての事業者を対象にしたものになっています。補助金獲得の経験交流や、補助金の申請を通じて経営の見直しにつながっています。

京都市の「企業立地促進制度補助金」「京都型グローバル・ニッチ・トップ企業創出支援事業補助金」などは、新

規創業やベンチャー、成長産業、大企業支援が中心です。

「横浜市中心小企業設備等助成制度(先端設備導入型)」や、高崎市の「まちなか商店リニューアル助成事業補助金制度」、経済効果抜群の各地の「住宅リフォーム助成制度」も紹介し、京都でも制度の創設の運動を呼びかけました。

安心して歩ける 七条通を！ 住みよいまちづくりに全力！



「住みよ西京極を作る会」の皆さんと京都市に長年求めてきた七条通りの安全対策。

2016年3月市会、全会派一致で拡幅整備及び当面の安全対策を求める請願が採択され、2018年今後、事業を実施する路線として、

道路整備事業の対象となり、今年度測量が始まります。

また、七条通りを通る市バス33系統、特33系統の路線を、地元の声もお聞きし、阪急西京極駅前を通り、花屋町通りを通るルートへの変更と、特33号系統の増便を求めました。

市民のくらし・福祉が第一！



コロナ禍がくらしや営業、子ども達の学びに大きな打撃を与えました。皆さん、いかがお過ごしですか。命がけでコロナ対応にあたられた医療や介護、障害、保育等エッセンシャルワークの皆さんに感謝申し上げます。国も京都市も「自助」を強調しますが、公の力発揮こそ必要です。今年も、市民のくらしと福祉を充実させる市政へ 皆さんと一緒に頑張ります。

9月市会で
代表質問しました

日本共産党
京都市会議員

河合ようこ です

新型コロナ感染対策の強化を



防疫目的のPCR検査の拡大、医療・福祉・公共交通従事者等への定期的なPCR検査実施、保健所を各行政区に戻すことが必要。コロナ禍で減収の医療機関への財政支援を国に求めるべきと質しました。

保育・学童保育もっと手厚く！

コロナ禍で保育や学童保育の大事さが再認識されました。職員配置基準・職員の賃金の抜本的引き上げが子どもにとっても職員確保にも必要です。



今こそ少人数学級を！



学校を見学し、先生方から伺った話を基に「少人数学級が今こそ必要」と質問。30人学級実現を求める国への意見書を全会一致で採択できました\(^o^)/ 実現へ頑張ります。

現行の敬老乗車証制度を守る！

「年を取っても嬉しいことはないが、唯一敬老乗車証が待ち遠しい」という声。乗り降り自由の敬老乗車証は、正に「市民の宝」！経済効果・健康効果も明らかです。改悪なんてとんでもない！民間バスにも使える制度に改善させましょう。



改善しました！

樫原鷗谷バス停

バス停利用者から要望があり、時刻表の感知式照明とベンチが設置されました。



歩道が広くなった！

約10年前に地元の方と土木事務所・関西電力に電柱移設を要望した歩道。電柱移設は無理でしたが、歩道の拡幅が行われました。



つぶやき

核兵器禁止条約を50か国が批准し、今年1月22日に条約発効です！被爆者の長年の運動が世界を動かした！被爆国日本の政府が批准しない事が残念です。粘り強い運動といえは、京都市で「小学校のような中学校給食」を実現する運動を思います。一刻も早く実現したい！

安心して住み続けられる西京区に



くらしの目線で 市政を変える

9月市会で日本共産党市会議員団を代表して、市民サービスのカットを進める「行財政審議会」の中止や、地球温暖化対策の具体的施策や市営住宅ストック総合活用計画の見直し等について質問し、大岩山の恒久対策等について要望しました。

こんにちは

日本共産党 市会議員
西野さち子 です

市民サービスの カットは許せない！

市長は「持続可能な行財政審議会」で「社会福祉を含むあらゆる市民サービスの検証」を指示し、「税金で社会的施策を行う時代は終わった」と訓示し、菅首相と歩調を合わせて、「自助」を強調しています。更に9月市会に所得の低い方への市民税減免制度の廃止を提案し継続審査になったものの、11月市会冒頭で日本共産党以外の議員の賛成で廃止が決まりました。実施は2024年からです。今後さらに市民サービスのカットが検討されていますから、市民の声で押し返しましょう！



ジェンダー平等の 社会実現を

京都市は9月から、パートナーシップ宣誓制度をスタートさせました。しかし、問題はまだ残されています。制度創設にとどまらず、全ての人が多様性を認めあう社会が必要です。同性婚を認める法改正を国に求めると同時に、京都市においても施策の改善をすべきです。



パートナーシップ宣誓制度の創設にあたっての申し入れ

市営住宅の戸数は 削減せず増やすべき

次期の市営住宅ストック総合活用計画の見直しが進められています。その中では、石田市住から大受団地への住み替えや団地再生などの計画もあります。しかし、建て替える場合は居住者のある戸数が原則になっていて、結果的に戸数を減らすこととなります。安価で安心して住み続けられる市営住宅を増やすことこそ必要です。



弱い者いじめの政治を許さない

市民の声と運動、共産党議員団の論戦で京都市政を変えられる

京都市議会の変化の一つ

9月議会での、**国への意見書**が4本も
全会一致で可決されました。

コロナ禍の下での、党派を超えた住民の未来に希望が持てる政治を求める声が拡大しました。

① 30人学級の推進を求める意見書

感染防止・学びの保障・心のケアのためにも 今こそ、少人数学級の実現を！

② 公営企業(市バス・地下鉄・上下水道)の損失補填を求める意見書

③ 医療機関への財政支援、 公衆衛生の充実・強化を求める意見書

④ 地方税財源の確保を求める意見書

自治体の財政が厳しい大きな要因に、三位一体改革以降の地方交付税の削減があります。京都市は、ピーク時から年間570億円も削減されています。



市長の迷言「もう時代は終わっている」 との福祉切り捨て許せません

みなさん、市職員のみなさんに向けた訓示で市長が何と言ったかご存知でしょうか。社会的な問題の解決について「税金で公務員が、行政がやらなければならないという時代はもう終わっている」と述べたのです。市長の「公の役割放棄宣言」であります。終わっているのは時代ではなく、そのような認識に立つ方が首長であることではないでしょうか。コロナ禍で苦しんでいる住民に、個人事業者に、中小事業者に寄りそって、施策を講じる。薄れてきた公共を再建することこそ京都市には求められています。

伏見を駆ける

活動報告



11.8 伏見交通問題 懇談会に伏見各地から 32名参加

「粘り強く、あきらめずに頑張ること」「希望を失わないことが大切」と共感。「国民の交通権は人権の一つ。周辺部での公共交通を守る運動が大切」と立命館大学・名誉教授の土居靖範先生の助言もあり元気に。今後、京都市・交通局、保健福祉局への要請行動も計画しています。



11.22～12.6 まちかど 議会報告会を伏見各地で開催

11月～12月にかけて8か所の「議会報告会」を開催し、293名の方に参加していただきました。京都市の弱い者いじめの政治の根源が、国の悪政にありと訴えました。



鳥獣被害で相談、対策

11.22 狩猟期間にはいり、生津の堤防近くで、キツネが罠で捕獲されました。作物の被害が続いていましたが、さっそく猟友会の方が連れて行きました。

日本共産党 京都市会議員 **赤阪 仁** あかさか ひとし は、がんばります。

生活相談に 全力!!

お気軽に
ご連絡下さい



「発熱時はどこに相談すれば?」「市のコロナ対策が不十分で不安」「雇い止めにあった」「もう商売を続けていけない」…コロナ禍のもとで市民のみなさんから切実な声が寄せられています。引き続き、どんなことでもお気軽に、ご連絡ください。

日本共産党
市会議員団 TEL. 222-3728

日本共産党 市会議員

やまね 智史

やまね智史



やまね智史
ホームページ



コロナ禍こそ 「公助」の強化を

代表質問で訴えました!

市長・副市長を徹底追及!

観光優先から
市民生活優先の
京都市へ!



「市民が市バスに乗れない」「師団街道や本町通が大渋滞」「住宅街に宿泊施設が乱立」など、住環境悪化に直面した伏見稲荷周辺のみなさんの声を紹介。「今こそ観光優先から市民生活優先の京都市へ転換を」「住環境、歴史的景観、文化財、地場産業が守られてこそ」と訴え、際限なく観光客とホテルを誘致してきた市長の責任を問いました。

砂川地域では、悪質な簡易宿所事業者が住民に脅しめいた文書を送りつけたり、工事車両による器物破損が発生。この事実を告発し厳しく追及しました。副市長は「運営後もしっかり監査し、不備あれば撤退してもらうことも視野に指導する」と初めて約束しました。

問題の施設前



「大学のまち」に
ふさわしい学生支援を!

3月から求め続けていた「コロナ禍で困窮する学生への実態調査」について、京都市はようやく「府と連携し、就活・アルバイト・学生生活への影響を調査した」と答弁。次は生活支援を!



文化芸術の灯を消すな!

ライブハウス・劇場関係者、音楽家やダンサー、音響・照明・舞台監督など、コロナ禍で苦境に立たされている文化芸術関係者の声を紹介し、市独自の支援を求めました。



副市長は「人が心豊かに生きるためには文化芸術は必要不可欠。とりわけコロナ禍においてその役割は極めて重要と認識」「文化芸術の灯をしっかりと灯し続ける」と答弁。施設使用料や PCR 検査費用の補助などが実現しています。引き続き声をぶつけます!

住民の身近な願いを 市政に生かす

日本共産党
右京区選出
市会議員の取組

新しい年の幕開けです。
いのち暮らし守り全力で頑張ります。
今年もどうぞよろしくお祈りします。

いのち暮らしを守る



日本共産党右京区選出の市会議員らは2020年7月31日、右京区役所に新型コロナ感染の対策について第2次の申し入れをしました。

新型コロナ感染が続いています。お困り事相談で声を聞きながら、感染予防や雇用対策、中小企業等の対策を区役所にも申し入れました。



災害へいち早く対応

昨年7月、高雄の国道162号線で大規模な土砂崩落が発生。直ちに調査に入り、通行確保と災害復旧を求めました。

住民の足「公共交通」を充実



市バス8号系統が全線で均一運賃(230円)となり、バス停が柵ノ尾まで伸びます。住民の要望を議会で取り上げてきました。

3つの約束

- ①いのち コロナ禍では「自助」より「公助」の充実を
- ②くらし 廃止する市税減免制度を復活する
- ③改革 議員報酬3割カット。大型公共事業の見直し



文化と環境守り

世界遺産仁和寺の前にホテル建設計画。住民と共に「住環境と文化遺産を守れ」と取り組んでいます。

マチナカの
安心・安全



高雄で災害倒木対策



宇多野で側溝改修



梅津尻溝公園の危険ブロック塀を改修



嵯峨野下立売道路を改修

いつまでも 住みつづけられる 東山区へ

コロナ禍で、暮らしと営業が大変です。感染防止を第一に、実態に即した支援が求められています。みなさんの声を、どんどん行政に届け、安心して住み続けられる東山をぜひ一緒に作りましょう。



祇園への

コロナ対策の 充実を



祇園の Snackbar で聞き取り

10月に4日間にわたり、市議団と東山民商で祇園のSnackbarを訪ね、新型コロナウイルスの影響を聞きました。「1日1組の客でも店を開けてきた…」など深刻です。お店の声と要望をまとめ、京都市に届けました。

市民税減免の廃止に 怒りの声

減免の廃止により、今熊野の難病のAさんは、医療費が2倍になる可能性があります。市議団のビラを見て、京都市や市議会の各会派に「廃止しないで」とメールで訴えてきました。コロナ禍のもとで弱い立場の人に負担を強いることは許せません。



三条のまちづくりに 住民の声を



東山・三条市営住宅

三条市営住宅の建て替え計画が始まりました。設備や引っ越しなど入居者の声に十分配慮するとともに、近くにお店や高齢者施設の誘致が必要です。東山区の人口減少を食い止めるには、空き家の公募を増やすこと、子育て世代や青年・学生の住宅を整備することも必要です。